

# コンタクト・ゾーン概念を用いたエスノグラフィー構築の試み —大阪市西淀川区の事例から—

大阪市立大学 文学研究科 寄本 圭子

キーワード：多様な人々の共生、新たな文化の生成、外国にルーツを持つ人々

## 研究目的

大阪市西淀川区の漁村、工業化、公害の歴史を持つ人々や、外国にルーツを持つ人々を含む、文化的に多様な人々の新たな「文化」形成の過程を、多様な人々を包摂する共生社会を目指す動きとして、エスノグラフィーを構築する。

## 研究の背景

### 現在の日本が抱える問題

- ・ 少子高齢化、地場産業の衰退：伝統文化の継承、地域経済の再活性化
- ・ 様々な国にルーツを持つ居住者の増加：相互理解、共生

### 大阪市西淀川区

- ・ 現在も漁業活動が残り、地域の伝統を継承していく努力
- ・ 高度成長期に工業化（阪神工業地帯）→公害
- ・ 公害の記憶を次世代に継承していく取り組み
- ・ 様々な国にルーツを持つ居住者の増加

→高齢化と国際化が同時に進行し、過去の記憶の継承と、新たなコミュニティ・イメージの形成をどう調和させるか

## 研究方法

**コンタクト・ゾーン**：異なる複数の文化が接触し、相互作用しながら混淆し、変容していく場（Pratt, 1992）

不均等な複数の文化・言語が接触し相互作用する結果、混淆していくプロセスは、言語的・文化的に多数である西淀川区の日本人と、言語的・文化的に少数である外国人の関係にあてはまる。西淀川区の、旧来からの住人と新しい住人を含む多様な人々が接触する「コンタクト・ゾーン」がどのように生成されているのか、またそこで、どのように新たな文化が生成されているのかを考察している。

## 研究内容

特に教育と宗教に焦点を当て、コンタクト・ゾーンになっていると予想される

- ・ 西淀川インターナショナルコミュニティ（外国にルーツを持つ人々に対して支援を行うボランティア団体）
- ・ 出来島識字・日本語交流教室
- ・ 聖パウロカトリック尼崎教会
- ・ 大阪マَسジド（イスラム教礼拝所）
- ・ 西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画「西淀川ささえあい♡プラン」  
ウェルカムバンク部会 数珠つなぎインタビュー・にほんごカフェ

を中心に、関係者へのインタビューや活動に対する観察から、日常的な実践をミクロな視点から描き出す。

### 参考文献

Pratt, Mary Louise (1992) *Imperial eyes : travel writing and transculturation*. London: Routledge.



これまでに以下が明らかとなった。

西淀川インターナショナルコミュニティでは、かつての子供達が、教える立場や、支援する立場にもなり、支援する側と支援される側という二項対立を越えて運営している。

出来島識字・日本語交流教室では、そこでしか学習できない人など、多様な学習者に対応し、居場所、なんでも相談できる場所、楽しく交流する場所となっている。

聖パウロカトリック尼崎教会では、多様な信者と神父の働きかけにより、多言語でミサが行われ、以前からの住民と新しい住民が交流している。

大阪マَسジドでは多様な国からのムスリムが集まり、交流しており、地域のステークホルダーとも連携して問題に対応している。

これら4つの場では、言語的および文化的なマジョリティである日本人と、マイナーである外国にルーツを持つ人々が、接触し、互いの文化に対応し、受け入れざるを得ない、という葛藤を抱えながらも、相互交渉がなされ、相互作用し、理解と実践が行われており、多様な文化的背景を持った人々のコンタクト・ゾーンとなっている。

その背景として、西淀川区は高度成長期以降、外部からの人々を受け入れてきた土地であり、また、公害問題に対応してきたことにより、多様な人々と共に生きていく素地があることが考えられる。

今後、さらに調査を進め、コンタクト・ゾーンとその繋がりによって、人々がどのように共生の取り組みを行っているのか、そこでどのように新たな文化が形成されているのか、考察を進めていきたい。